

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 56	福山市立久松台小学校
最終更新日	2021年(令和3年)3月8日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保が課題である。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自ら考え、判断し、行動する児童・生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区合同研修における、授業研究及び教科等部会の取組 ・ ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 ・ 基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 ・ 合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

<p>ミッション</p> <p>未来を切り拓く「生きる力」を育成する</p> <p>「すべては子どもたちのために」を基底に据え、学校・保護者・地域が連携し、「この学校へ来てよかった」「この学校へ来てさせてよかった」といわれる学校に</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>自己効力感^目</p>	<p>思考力^罫</p>	<p>他者とつながる力^罫</p>	
<p>学校教育目標</p> <p>自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>自分の良さを認め、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しようとしている。</p>	<p>自ら課題を見つけ、見通しをもって、問題を解決することができる。</p>	<p>友達とつながる良さを感し、相手の意図を汲みながら聴いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。</p>	
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を上回り、基礎的・基本的な学力は十分定着している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の資料を関連付けて説明する力が弱い。 ・ 自分から課題意識をもって、学習する児童の割合が低い。 <p><授業></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でとらえたキーワードを使って考えをまとめる際に、図・表やグラフ、事象と関連付けて表現できる児童が増えてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が説明しすぎてしまう。 ・ 対話的な活動を通して考えを深めたり、広げたりする学習展開が確立されていない。 	<p>研究</p> <p>教科等 主題・ 内容等</p> <p>理科・家庭科</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現を目指して ～関わり合い、自分事として考え、実生活にいかせる子どもの育成～</p>	<p>子どもたちが、考えることに面白さを感じ、学びのつながりを実感できる授業。</p>			
		<p>めざす授業の姿</p>	<p>^自 教師はファシリテーターの役割を担いながら、対話をつないでいく。</p> <p>^罫 問題解決的な学習を仕組む。子どもの思考を深める発問をする。</p> <p>^他 子どもの対話が生まれる教材を提示する。</p>		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市久松台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	自ら考え学 ぶ児童(主体 性)の育成	★	継続	主体的に授業に 取り組む児童の 育成	生活科・総合的 な学習の時間を 中心に、児童が 「やってみた い」と感じるよ う、単元づくり を充実させる。 学びをつなぐ取 組をする。	学びアンケートで学 びが面白いと答える 児童を90%以上 にする。	アンケートで の肯定的回答 は83%であ った。	3	2	個々が課題を もち「やってみ たい」と思える ような単元づ くりを引き続 き行っていく。	□校内研修により 全教職員で主体 的に授業に取 組む児童像の 共通認識を行 った。 ◎アンケートで 学びが面白い と肯定的に回 答した児童は 81%であ った。	3	3	3	学びの質を 上げていくよ う、教師の ファシリテ ーターとし ての役割な どを研修す る。
			新規	相手意識をも って人と関 わる児童の 育成	全員が安心して 集団生活を送 ることができる 環境を整えて いく。	QUアンケートで、 学級生活満足 群に属する 児童を70% 以上にする。	学級生活満足 群に属する 児童は、75% であった。一 方で「非承認 」の項目が 高いクラス もあった。	3	3	引き続き、 児童に寄り 添う指導を 実施してい く。	□月に1回全 教職員で各 学年や配慮 の必要な 児童の状況 ・対応につ いての共通 認識を行 った。 ◎学校生活 満足群に 属する児童 は、83% であった。 前回と比 較して、 多くのク ラスで改 善されて いた。	3	4	4	引き続き、 児童に寄り 添い、窮屈 でない取組 を実施し、 全職員で 子どもに 関わって いく。
			新規	体を動かす ことが楽し いと思える 児童の育成	レク委員会と 連携し、た てわりレク や体育的行 事を充実さ せる。家庭 学習で体 力づくりを 実施する。	1日に30分 以上運動 する児童 を90% にする。	1日に30分 以上運動 する児童 は76% であった。 たてわり レクや体 育的行事 が十分に できなかった。	2	2	児童会や レク委員 会と連携 し、たて わりレク や体育 的行事を 実施す る。	□ヒサリン ピックや 大縄大会 など、体 育的行事 等を実施 した。 ◎1日に 30分以上 運動する 児童は 79% であった。	3	3	3	引き続き、 児童会や 委員会と 連携し、 日常的に 運動でき る環境づ くりや体 育的行事 を実施し ていく。
1	教職員の資 質・能力の 向上	★	新規	子どもたちが 学びのつな がりを実感 できる授業 力の向上	児童の学びに 焦点を当て た研究授業 を実施す る。初任研 の師範授業 や日頃の 授業を「み る・みる・ みせる」見 せ合いっこ 授業をする。	教職員アン ケート「日 々の研修が 実践に役立 っている」 に対する 肯定的回答 を90% 以上にする。	教職員アン ケートでの 肯定的回答 は100% であった。 研究授業 では、児童 の姿をも とに討議 することが できた。	3	3	引き続き、 研究授業 後の討議 を充実さ せていく。 また、前 期は見せ 合いっこ 授業が十 分にでき なかつた ので、今 後実施し ていく。	□初任研に 合わせて 毎週見せ 合いっこ 授業を展 開し、放 課後、児 童の学び に焦点を 当てた研 修を実施 した。 ◎教職員 アンケート での肯定 的 回答は 100% であ った。 見せ	4	4	4	引き続き、 職員と学 びにつ いて話し 合うこと ができる 環境づ くりを行 って いく。

											合いっこ授業後に見た者で集まり、学びについて話し合う機会をもつことができた。				
1	地域に貢献する学校	新規	持続可能な社会について探究し、地域に還元する児童の育成(SDGs)	総合的な学習の時間に、持続可能な社会づくりについて学び、実践をする。	持続可能な社会づくりのための具体的な方法を答えられる児童を80%以上にする。	2学期より持続可能な社会づくりについての学習を始めた。	3	3	今後探究したことをもとに、実践につなげていく。	□2学期の3～6年生の総合的な学習の時間にSDGsのたてわり学習を実施した。 ◎持続可能な社会づくりのための具体的な方法を答えられた児童は100%であった。	4	3	3	今年度の反省をもとに来年度のカリキュラムを改善していく。	

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。